

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成21年12月17日(2009.12.17)

【公表番号】特表2009-513672(P2009-513672A)

【公表日】平成21年4月2日(2009.4.2)

【年通号数】公開・登録公報2009-013

【出願番号】特願2008-538100(P2008-538100)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/485 (2006.01)

A 6 1 K 31/437 (2006.01)

A 6 1 K 31/195 (2006.01)

A 6 1 K 31/5513 (2006.01)

A 6 1 K 31/4535 (2006.01)

A 6 1 P 25/18 (2006.01)

A 6 1 P 25/24 (2006.01)

A 6 1 P 25/22 (2006.01)

A 6 1 P 25/26 (2006.01)

A 6 1 P 25/28 (2006.01)

A 6 1 P 25/32 (2006.01)

A 6 1 P 27/02 (2006.01)

A 6 1 P 25/08 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 43/00 1 2 1

A 6 1 P 43/00 1 0 5

A 6 1 K 31/485

A 6 1 K 31/437

A 6 1 K 31/195

A 6 1 K 31/5513

A 6 1 K 31/4535

A 6 1 P 25/18

A 6 1 P 25/24

A 6 1 P 25/22

A 6 1 P 25/26

A 6 1 P 25/28

A 6 1 P 25/32

A 6 1 P 27/02

A 6 1 P 25/08

A 6 1 P 25/00 1 0 1

【手続補正書】

【提出日】平成21年10月29日(2009.10.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

細胞又は組織における神経発生を刺激する又は増大させるための医薬組成物であって、GABA物質を場合により1又は複数の他の神経剤と組み合わせて含み、ここで、前記物質又は組み合わせは前記細胞又は組織における神経発生を生じさせるために有効である、前記医薬組成物。

【請求項 2】

前記細胞又は組織が、動物対象又はヒトの患者のものである、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項 3】

前記患者が、神経発生を必要とするものであり、中枢又は末梢神経系の疾患、症状又は負傷と診断されている、請求項2に記載の医薬組成物。

【請求項 4】

前記1又は複数の他の神経剤が、オピオイド又は非オピオイド神経剤である、請求項1～3のいずれか1項に記載の医薬組成物。

【請求項 5】

前記非オピオイド神経剤がドーパミンである、請求項4に記載の医薬組成物。

【請求項 6】

前記神経発生が、神経細胞系に沿って神経幹細胞(NSC)の分化を含む、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項 7】

前記神経発生が、グリア細胞系に沿って神経幹細胞(NSC)の分化を含む、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項 8】

前記オピオイドが、カッパオピオイド受容体アンタゴニストである、請求項4に記載の医薬組成物。

【請求項 9】

前記オピオイドが、カッパオピオイド受容体選択的アンタゴニストである、請求項8に記載の医薬組成物。

【請求項 10】

前記オピオイドが、JDTic、ノル-ピナルトルフィミン、及びブプレノルフィンから選択される、請求項9に記載の医薬組成物。

【請求項 11】

前記細胞又は組織が、低減された神経発生を示し、あるいは神経発生を低減又は阻害する物質に供される、請求項2又は3に記載の医薬組成物。

【請求項 12】

前記神経発生を低減又は阻害する物質が、オピオイド受容体アゴニストである、請求項11に記載の医薬組成物。

【請求項 13】

前記オピオイド受容体アゴニストが、モルヒネ又は他のオピエートである、請求項12に記載の医薬組成物。

【請求項 14】

前記対象又は患者が、1又は複数の薬物中毒又は薬物依存を有する、請求項2又は3に記載の医薬組成物。

【請求項 15】

対象又は患者の細胞変性、精神状態、細胞外傷及び/又は負傷に関連する神経系障害、あるいは他の神経関連症状を治療するための医薬組成物であって、GABA物質を場合により1又は複数の他の神経剤と組み合わせて含み、ここで、前記物質又は組み合わせは前記対象又は患者の前記疾患における改善をもたらすために有効である、前記組成物。

【請求項 16】

前記細胞変性に関連する神経系障害が、神経変性障害、神経幹細胞傷害、神経前駆細胞障害、網膜の変性疾患、虚血性障害、及びその組み合わせから選択される、請求項 15 に記載の医薬組成物。

【請求項 17】

前記精神状態に関連する神経系障害が、精神神経障害、情動障害、うつ病、軽躁病、パニック発作、不安神経症、過剰病的爽快、双極性うつ病、双極性障害（躁うつ病）、季節的気分（又は情動）障害、統合失調症及び他の精神病、脳回欠損症候群、不安症候群、不安障害、恐怖症、ストレス及びストレス関連症候群、認知機能障害、攻撃性、薬物及びアルコール乱用、強迫的行動症候群、境界性人格障害、非老人性痴呆症、疼痛後うつ病、分娩後うつ病、脳性麻痺、及びその組み合わせから選択される、請求項 15 に記載の医薬組成物。

【請求項 18】

前記細胞外傷及び / 又は負傷に関連する神経系障害が、神経的外傷及び負傷、手術関連外傷及び / 又は負傷、網膜の負傷及び外傷、てんかんに関連する負傷、脊髄損傷、脳損傷、脳外科手術、脳損傷に関連する外傷、脊髄損傷に関連する外傷、がん治療に関連する脳損傷、がん治療に関連する脊髄損傷、感染に関連する脳損傷、炎症に関連する脳損傷、感染に関連する脊髄損傷、炎症に関連する脊髄損傷、環境有害物質に関連する脳損傷、環境有害物質に関連する脊髄損傷、その組み合わせから選択される、請求項 15 に記載の医薬組成物。

【請求項 19】

前記神経関連症状が、学習障害、記憶障害、自閉症、注意力欠如障害、ナルコレプシー、睡眠障害、認知障害、てんかん、側頭葉てんかん、及びその組み合わせから選択される、請求項 15 に記載の医薬組成物。

【請求項 20】

前記精神状態が、うつ病を含む、請求項 17 に記載の医薬組成物。

【請求項 21】

前記 1 又は複数の他の神経剤が、抗うつ剤を含む、請求項 20 に記載の医薬組成物。

【請求項 22】

前記うつ病が、対象又は患者によるモルヒネ、アルコール又は薬の使用に起因する、請求項 20 に記載の医薬組成物。

【請求項 23】

前記 G A B A 物質が、アベカルニル、バクロフェン、ジアゼパム、エスゾピクロン、ゾルピデム又はチアガピンである、請求項 15 ~ 22 のいずれか 1 項に記載の医薬組成物。

【請求項 24】

前記 G A B A 物質が、1 又は複数の他の神経剤との組み合わせである、請求項 15 に記載の医薬組成物。

【請求項 25】

前記 G A B A 物質が、場合により 1 又は複数の他の神経剤との組み合わせで、医薬として許容される剤形である、請求項 15 に記載の医薬組成物。

【請求項 26】

対象又は患者への移植のための細胞又は組織を製造する方法であって、以下のステップ

：
前記細胞又は組織を、G A B A 物質と、場合により 1 又は複数の他の神経剤と組み合わせて接触させ、前記細胞又は組織の神経発生を刺激する又は増大させる、を含む、上記方法。